

映画『蟹工船』鑑賞

2008年8月22日

(山村聡監督、北星、1953年)

「おい地獄さ行くんだで！」

物語全体を象徴する台詞で始まる、小林多喜二の小説『蟹工船』の映画版です。新文芸座で「映画を通して社会を見る」と題して、社会派の映画が毎日上映され、そのトリを飾りました。



昭和の初期、函館の港。北洋のカムサッカで操業する「蟹工船」に幾百人という男達が、ギュウギュウになった小舟から次々と乗り込みます。

「金を稼ぐ」そのために、酒が大好きな飲んだくれ、博打打ちといった荒くれ者から、女性関係で訳ありの者、会社を倒産させてしまった者、青年の志を抱く者、年端の行かない少年、様々な境遇の人々が、「蟹工船」という一つところで寝食を共にします。

「蟹工船」はカニをとったその場で加工し、缶詰にし、梱包までを一つの船の上で行う、まさに「工場」です。

天候不良で激しく揺れる船、悪い衛生環境は容赦なく労働者の体力を奪います。

この船の現場監督である浅川は、まさに「王

として君臨します。この事業を「国の一大問題」として、増える病人を心配する医者や、SOS信号を受信した船長の進言でさえ、無視し続けます。

状況の改善を求める者達のリーダーを見せしめにし（結局死んでしまい、夜中に海に棄てられてしまいます）、病気で死んでしまった者を弔うため休みを求めても、聞き入れてもらえません。数人だけが立ち会っての別れ。

浅川の横暴ぶりに、労働者たちは、浅川に対する憎悪を募らせていきます。そして、上層部の乱暴をきっかけに「やめだ！やめだ！」と仕事を中断します。その勢いは船全体に広まり、怒濤となって浅倉のいる幹部室へなだれこみます。はたして、状況は改善されるのか……

さて、今年の始めあたりから、この作品（小説）がブーム（社会現象）になっていることは皆さんもご存じでしょう。格差社会、批正規雇用、ワーキングプア、……わたしも、本屋さんで平積みになっているコーナーを見て、中学校の時の教科書で「蟹工船」というインパクトのある言葉が印象的だったことを思い出しました。そして、コンビニでマンガ版を一気読みしました。

映画は今から50年以上前の作品ですが、とてもテンポがよく、登場人物もとても個性的で、暗い話ではありますが、エンターテインメントとしてよい作品でした。

また、映画を観ていて思ったのが、出演者や作品そのものから伝わる圧倒的なエネルギーでした。この原作が今の人たちに共感を得てブームになったのですが、これらの作品のようなエネルギーがはたして今の人たちにあるのでしょうか。いや、実は内に秘めて爆発しそうで、外にもれだした一

部が、ブームをよんだということなのでしょうか。また、作中での浅川というわかりやすい「敵」が、現代社会では巨大な目に見えない「力」として圧力をかけてきており、苦しくてもどこに訴えたらよいのかわからないということもあるでしょう。

出版から 79 年経って再び脚光を浴びたこの作

品、現役で読んだ人と話ができればと思いました。当時の人々がこの作品をどう読んだのだろう、そして没後 75 年、作者はこの未来をどう思っているだろうと、複雑な気持ちで映画館を後にしました。

(T本)

第5回 東京平和映画祭

2008年7月18～20日

強い夏の日差しの中、「あなたに真実と勇気を渡す感動の三日間」をコンセプトに、代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターで第5回東京平和映画祭が開かれました。

わたしはイベントのチラシ(先月号で紹介の『人権ツアーに行こう!』です)を折り込む手伝いをするため朝8時に向かったのですが、スタッフや他のチラシを持ってきた人で熱気ムンムンでした。



『いのちの食べかた』

(原題: OUR DAILY BREAD)

(ニコラウス・ゲルハルター監督、2005年)

機械化により、効率の良さを追及した大農場や家畜の屠殺場取材したドキュメンタリー映画です。

この映画には、音楽はありません。撮影している現場の音だけが流れます。ナレーションも、ありません。インタビューも、ありません。

ひたすらに、野菜や家畜などを、食品に加工する様子が映されていきます。

ゆっくりとベルトコンベアーで運ばれる牛、トラックにギュウギュウに詰められて運ばれる豚、体育館の床に群がる無数のヒヨコ、巨大なビニールハウ

スでの野菜栽培、……

その淡々とした見せ方と相まって、人のエネルギー(=熱)になるための食物が、ひどく無機質で、冷たいものに見えてきます。

気がついたことは、映像に出る食物の量に対して人の数が圧倒的に少ないということです。効率化された生産現場には、一カ所に一人、多くて数人しか人はいません。そのため、野菜を手摘みする人や、機械を操る人を見ると「ああ、人がいる」と和むのでした。

現場のシーンの後で、そこで働く人が食事をするシーンでは、何を食べているのだろう、と食卓を凝視してしまいました(ほとんどの人はパンを食べているようでした)。

機械化され、間断なく作業が進んでいくその装置、システムは教育テレビの『ピタゴラスイッチ』を見ているようでもあり、思わず「お見事」とうなってしまうこともしばしばありました。

もちろん、すべての食物がこの作品のように作られているわけではないでしょうが、現在、安く、安定して供給される食物の多くは、このシステムなしには成立し得ないでしょう。

また、作品を観ているうちに、もしかして、大量に作られる野菜や屠殺される牛や豚と作業員の人たちが、じつは搾取する人間とされる人間の隠喩なのではないか、とふと感じました。これはすこし考え過ぎかもしれませんが、監督の意図したところかどうかもうかがい知ることはできません。

この映画の後もう一本鑑賞して、お昼の休憩の時間となりました。なにかを意識してか、その日はパンを買って食べました。まわりを見回すと、同じ映画を見た人が感想を話しながら食事をしていました。心なしか、みな神妙な表情で食べていたように見えました。

そして、次の日にはもうお肉を食べている自分が

いることになかばあきれながらも、生きるためには食べなければいけないという当たり前のことを、あらためて考えさせられることになりました。

『9.11 とつくられる戦争』 (複数の映像とその解説)

「グローバル・ピース・キャンペーン」の立ち上げ人の一人である、きくちゆみ氏による映像を交えたトークショーです。



アメリカの主導により現在も続いている対テロ戦争は、9.11 事件をきっかけにはじまりましたが、

この事件自体に対する多くの疑問点を、多くの映像から検証しようというものです。

今年1月、参議院外交防衛委員会でこの事件の公式発表への疑問が民主党の議員から出されました。また、その他の映像でも、倒壊するビルの2～30階下で爆発する様子をとらえたものや、「まるでビルの解体のようだった」と証言する消防士、ペンタゴンに飛行機が突っ込んだ跡の不自然さなど、10以上の映像、作品が解説されました。

アメリカの映画監督のアーロン・ロッソのインタビューでは、9.11 事件の11ヶ月前に「ある出来事が起こる」と友人（ニコラス・ロックフェラー）に聞いたと証言し、「これは倒す敵がない『永遠の茶番』だ」と話します。

そして、『WWJD』のイラクで犠牲になっている子ども達の映像、『傷ついた米兵』ダイジェスト版で現在もイラクに派兵され、傷を負って帰国した米兵の人々の生々しい画像は、戦争がもたらす悲劇がえんえんと続いていることを訴えかけてきました。

9・11 事件が報道通りのものかを論ずるまでもなく、その後の戦争を主体とした政策が正しいとは思えません。誰かの利益のために命を奪われる方はたまったものではありません。

(T 司)

news;

『08年秋！憲法を本質的に考えるリレー レクチャー』のお知らせ

HuRP の理事長で、法学館憲法研究所首席客員研究員の浦部法穂教授と、同じく理事の水島朝穂教授が講師を務める『08秋！憲法を本質的に考えるリレーレクチャー』をご紹介します。ふるってご参加ください。

戦後最大の曲がり角ともいえるこんにち、戦後社会に果たしてきた日本国憲法の役割について、憲法の基本的考え方から捉え直すことがいよいよ重要となっています。07年に憲法改正の手続法が制定され、憲法改正国民投票が将来実施されることも念頭に、憲法について本質的に考えてみます。

【日時・テーマ・講師】

第1回 9月13日(土)13時～17時

「憲法9条の歴史と未来」

講師：山内敏弘氏（龍谷大学教授・法学館憲法研究所客員研究員）

協賛：Peace Night 9 実行委員会

第2回 10月4日(土)13時～17時

「時代・社会を憲法で検証するー
マスコミの各種報道を素材に」

講師：水島朝穂氏（早稲田大学教授・法学館憲法研究所客員研究員）

第3回 11月15日(土)13時～17時

「雇用、福祉、生活のあり方と 日本国憲法」

講師：森 英樹氏（龍谷大学教授・法学館憲法
研究所客員研究員）

協賛：NPO法人「POSSE」

第4回 12月6日(土)13時～17時

「世界史の中での日本国憲法の 意義」

講師：浦部法穂氏（名古屋大学教授・法学館憲
法研究所主席客員研究員）

協賛：歴史教育者協議会

【会場】 伊藤塾高田馬場校（高田馬場駅早稲田
口から徒歩3分）

【入場料】 各回 1000 円（法学館憲法研究所賛助
会員・学生・伊藤塾塾生は 500 円）

<全4回通しで参加される方は 3000 円（法学館
憲法研究所賛助会員・学生・伊藤塾塾生は 1500
円）>

【主催・問合せ先】

法学館憲法研究所

電話 03-5489-2153 fax 03-3780-0130

E-mail info@jicl.jp

カラダに平和を 自炊のススメ

21 マンゴーサラダ

皆さんは「果物が入ったサラダ」は好きですか？
わたしは、子どもの頃「なんでしょっぱいものと甘
いものを一緒にするの」と言って避けていました。
今はいくらでも食べられますが、自分で作ったこと
はほとんどありません。今回、会社の人にマンゴー
をいただいたときに、ふとそんなことを思い出し、
この機会に自分で作ってみようかと思いました。

材料：マンゴー、タマネギ、キャベツ、お好みの
ドレッシング

手順：

- 1 マンゴーの皮をむき、均等の大きさに切る（本当は、賽の目状に切りたかったのですが……）。
- 2 タマネギは前回（『ピザトースト』の回）と同じように刻み、キャベツは千切りに。
- 3 お皿に盛りつけて、ドレッシングをかける。

マンゴーの鼻にぬける独特の香りと甘さ、ドレッシング（今回は青しそドレッシングを使いました）の塩
気が思ったより合っていておいしい！なんともぜいたくなサラダでした。



今月は映画づくしとなりました。どの作品も、考えさせる作品ば
かりで、充実した夏になりました。

東京では雨が異常な降り方をしています。みなさまは洗濯物を濡
らされはしませんでしたか？わたしは見事にやられました！

（写真は東京・大塚阿波踊りの様子です。この日も大雨でした）

（T本）



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーフ)

Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231

e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>